



写真:霜がかかったミヤマキリシマ (撮影:平成19年11月13日)

「霜」

ミヤマキリシマの葉一枚一枚にびっしりと霜が付いている様子は、まるで砂糖菓子のようにです。

ぐんと冷え込んだ朝、えびの高原には真っ白に霜が降りています。ミヤマキリシマの葉一枚一枚にびっしりと霜が付いている様子は、まるで砂糖菓子のようです。タンナサワフタギの葉は、霜をまとって、はらはらと散っていきます。

霜は空気中の水蒸気が、0度以下に冷え込んだ地面や植物などの表面に触れて昇華し、氷の結晶となり付着してできます。最低気温が4度以下で、風が弱く晴れた日の朝などには霜が降りやすく、えびの高原では例年10月中旬ごろに初霜が降ります。車のフロントガラスが真っ白く霜で覆われていることもあります。

足元には霜柱もできます。霜柱は、地面の中の水分が地表で凍ってできます。地表の水分が凍りつくくと、地中の水分が吸い上げられ、柱状に成長し、長いものでは高さが10cm程になります。子どもたちが楽しそうにサクサクと踏んで歩いている姿をよく見かけます。
(文/えびのエコミュージアムセンター)